

第3回埼玉県観光づくり基本計画検討委員会（主な意見）

－ 平成24年10月25日（木）開催 －

- 1 埼玉県は日帰り観光県で、観光客が泊まらないことが課題だという意見もあるが、それが埼玉観光の特徴であるという考えもある。県内はもとより、県を超えて観光客を呼ばなくてはならない。
- 2 観光施策を推進するに当たり、地域の個性とか地域の文化を大事にする時代が来ている。多彩な資源が売りの埼玉観光は時代に合ってきた。埼玉県の観光計画は、他県とは違うことを打ち出した方がよい。
- 3 水辺、サイクリング、街道など観光に関連するもので、埼玉県庁内で検討しているものを観光課が吸い上げたり、調整したりする必要がある。埼玉県の観光が5年後、今とどのように変わるのか、どのような形を目指すのか計画に盛り込んだ方がよい。
- 4 計画を策定し、新たに予算をつけて事業化することも必要であるが、既存資源をどうやって使ってもらえるかが大事である。見る人にインパクトを与えるような観光資源を探すことが重要である。
- 5 庁内、市町村、他県と一丸となって観光立県を目指すことを計画書に書いた方がよい。広域での取組が今後の重要な課題である。まだ、具体的でないなら、推進体制の中で県の覚悟を示せばよい。
- 6 行政か民間か、この計画を進める上で誰が何をやるのか、具体的なことをきちんと書いた方がよい。例えば、川の再生では、どこの市町村がやる気があるのか、しっかり見極めていく必要がある。
- 7 計画の推進体制の中に「市町村域を超えた広域連携のコーディネートを行います」と書いていただいたが、市町村の枠を超えて観光的なもの売り込むことができる人が必要と考えている。
- 8 県議会への報告や県民コメントを実施し、それなりの意見をいただいているが、市町村の意見が5市2町と少ない。市町村にもっと観光について提案してもらい事業化する必要があるのではないかと。地域、地元の声聞くべきである。そうしないと計画に書いたことが机上論になってしまう。